

DEBUT 首長

茨城県古河市長 菅谷 憲一郎氏



すがや・けんいちろう 1952年茨城県古河市生まれ。75年東海大学政治経済学部卒。96年から合併前の旧総和町町長2期。2011年1月から茨城県議。白戸仲久・前古河市長のリコール運動の中で12年12月に県議辞職、出直し市長選で当選。61歳。

文化センター建設を白紙撤回 0歳児の幼稚園受け入れ推進

古河市 関東平野のほぼ中央、茨城県の西端に位置し、人口14万6000人。2005年に旧古河市、総和町、三和町の1市2町が合併して成立。

——前市長が計画した総合文化センター建設に反対したのはなぜか。

前市長の文化センター建設計画はあまりにも馬鹿げている。就任後、私が白紙撤回した。計画はずさんで、無理がある。市民によるリコール運動が起きたのも当然だ。まず125億円もの建設費が大き過ぎる。茨城県内には15の文化センターがあるが、建設費は平均20億～30億円だ。産業廃棄物の最終処分場跡地という立地場所にも非常に問題がある。駅前など便の良いところならともかく、集客できるわけがない。

全国の文化センターの大半は赤字運営を強いられている。一般会計450億円程度の中古河には財政負担が大き過ぎる。そんなお金があるなら教育や福祉に投入すべきだろう。

——なぜ教育と福祉か。

全国と同様に古河市も人口減少と高齢化にさらされている。2040年には人口10万9000人程度と現在より3万7000人減少するという予測もある。私は政治家を志した時から若者に魅力あるまちづくりを目標に、教育と子育て支援の充実を施策の第一としてきた。教育と子育て支援を充実させれば、若者が地元で定住し、さらに市外からも移り住んでくる。そうなれば高齢化や過疎化を防げる。

——教育充実の具体策は。

東日本大震災以来、問題になっている小中学校の耐震化工事をすべて前倒しで進める。すでに予算を組んだ。今後は1クラスの生徒に担任と副担任の教師2人が授業するティーム・ティーチング(TT)を中学校にも広げる。旧総和町長の時、全国に先駆けて小中学校にTTを導入したが、合併後は中学校ではやめていた。これを復活させたい。

情報機器を活用した最新の教育にも本格的に取り組む。タブレット型端末を利用する教育を小学1年から取り入れたい。一

部小学校で試行を始めているが、教育委員会と授業方法などの準備を進めている。

——福祉はどうする。

子育て支援に重点的に取り組む。保育園は満杯でも幼稚園は教室が空いている。幼稚園に0歳と1、2歳児も入れる仕組みを市独自で設けているが、これをさらに徹底して進めたい。

また、JR古河駅西口に子育て支援の拠点をつくる。保育ルームや一時預かり保育園、ミニ児童館、図書館などを設ける。来年度には着工したい。交通の便の良い一等地なので、首都圏などに通勤する母親らの子育て支援に役立つだろう。

ただ、本来は箱モノは嫌いで、ハードよりソフトを重視する。高齢者福祉も施設介護ではなく、ホームヘルプサービスを充実させたい。医療も今後は在宅医療に重点を置く。在宅医療をどう進めるか地元の医師と検討中だ。

(聞き手は古山 幹雄)